

『イスラーム世界研究：分析・資料・動向』投稿規定

1. 投稿原稿の種類

1) 論考

論文、サーヴェイ論文、研究創案ノート、臨地サーヴェイ

2) 知のインフラ構築への貢献

原典翻訳、主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィー

3) 書評及び研究動向

書評論文、研究動向、書評

4) フィールド報告

フィールド報告

2. 投稿原稿の構成

1) 論考は、題名、著者名、本文、引用文献リスト、図表などからなる。

2) 原典翻訳には、訳者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。主題年表、ディレクトリ、ビブリオグラフィーには、作成者、出典を明記し、資料内容に適切な形態を取る。

3) 書評論文・書評には、評者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記する。

4) フィールド報告には、滞在地、滞在年月日、滞在期間を明記する。

3. 提出方法

1) 必要添付書類

原稿の冒頭に、以下の事項を明記した別紙を添付する。

- ・原稿の題名・種別・枚数
- ・執筆者の氏名（ローマ字表記を添える）
- ・所属機関・部局名と身分・役職（英訳を付ける）
- ・連絡先（電話番号と e-mail アドレス）

2) 注意事項

最終原稿と内容の英文説明（「書評」は不要）を電子データ（テキスト形式・Word・一太郎・TeX 等）で提出する。打ち出し原稿 1 部とそのコピー 1 部も添える。その際、注や文献表などに遺漏がないか、必ず確認してから提出する。また、うまく表示されない特殊な文字について、朱で指示するか囲むなどして、注意を喚起する工夫をする。なお、原稿は原則として返却しない。

3) 外国語の投稿に関して

外国語の投稿は、本投稿規定に準じると共に、投稿前にネイティブ・チェックを済ませておく。

4. 査読について

査読は、査読委員会によって覆面方式で行う（全カテゴリー）。

5. 著作権について

本誌に掲載された論文などの著作権は本誌編集委員会に帰属する。

6. 書式

1) 章構成

本文の章は、ローマ数字 (I, II, III) を、節を算用数字 (1, 2, 3) で示すこととする。

2) 転写

転写規則は、原則として『岩波イスラーム辞典』に拠るものとする。

3) 表記の原則

用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例になっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称については、初出に限りその原語（アルファベット表記）をカッコ内に付記する。

4) 英文要旨

雑誌巻頭に雑誌全体の英文要旨を付けるので、内容の説明を 200 語程度の英文で添付する（但し、「書評」は除く）。なお、必要がある場合、英文校閲および編集は編集部で行う。

5) 数字

原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則として算用数字を用いる。ただし万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、十数年などとする。

西暦以外の暦が関わる場合は、原則として西暦以外の暦と西暦を併記する。ただし、西暦のみの表記も可とする。

[例]

年代：単年のときは、1945 年、複数年のときは、1945-48 年（1945-8 年としない）と記す。

人名：アブー・ハーミド・ガザリー (Abū Ḥāmid al-Ghazālī, d. 505/1111)

 ホメイニー (Rūh Allāh Mūsavī Khomeynī, 1902-1989)

6) 文献の引用

① 引用文献や参考文献の詳細な書誌情報は、原則として脚注には記さず、原稿の末尾に一括して載せる（古典を多用する場合は、人文方式も可とする。但し、書名には下線を引かず、イタリックにする）。

② 本文および注の中で、引用または参照のために文献を挙げるときは、著者名、発行年、（必要なら）ページ数を [] し、本文中に入れることとする。

[例]

…… [Tabata 1978: 147]

…… [吉本 1975a: 15-18]

…… [坪井 1979: Ch. IV]

…… [福田ほか 1979]

…… [Fukushima et al. 1980]

…… [大黒 1987; Johnson 1998]

…… [Robertson, H. 1979; Robertson, S. 1998]

…… [Yamada 2000: 7-17; 2002: 37-59]

…… [IIBI] (オンライン文献の場合は、閲覧年月日を記載しない)

同一の文献を繰り返し引用や参照する場合にも、そのつど上に示した文献表記をすること。前掲書、同上書、ibid. や loc. cit. などを使わない。

7) 引用文献リスト

本文および脚注において引用した文献は、すべて原稿の末尾にまとめ、下記の方法により記入する。

①一般原則

文献表示の順

a. 単行本、多巻本など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 発行年 (西暦)
- (3) 『書名』 シリーズ名 (カッコ書きする)
- (4) 出版地・発行地名 (外国語文献の場合のみ記入)
- (5) 出版社・発行所名

b. 雑誌、論文、新聞など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 掲載紙誌の発行年 (西暦)
- (3) 論文タイトル
- (4) 掲載紙誌名
- (5) 巻・号
- (6) ページ

②リストの順

- a. 日本語文献、外国語文献の順で記す。
- b. 同一著者による複数の著作は年代順

[例]

i) 日本語文献の記載例

a. 単行本

井筒俊彦 1975 『イスラーム思想史』 岩波書店。
—— 1992 『イスラーム哲学』 (井筒俊彦著作集 5) 中央公論社。

b. 論文

・ 単行本所収論文

菅原和孝 1999 「現代のプッシュマン——定住化と再移住」 川田順造 (編) 『アフリカ入門』 新書館, pp. 135-154.

・ 雑誌論文

倉沢愛子 1998 「インドネシアの村落開発における情報伝達——『クロンブンチャピル』を中心に」 『アジア経済』 39 (9), pp. 71-90.

c. 翻訳文献

カステル, マニユエル 1997 『都市とグラスルーツ——都市社会運動の比較文化理論』 (石川淳志監訳 吉原直樹・安江孝司・橋本和孝・稲増龍夫・佐藤健二訳) 法政大学出版局。

d. 新聞

酒井啓子 2007年3月17日「イラン攻撃は近い？」『朝日新聞』.

『毎日新聞』2000年3月22日「米・インド関係——両国首脳交流拡大の共同声明に署名」.

e. 文書

斉藤良衛. 作成年不詳. 「日独伊同盟条約締結要録」外務省記録 B.1, O.O.J/X3-7.

f. オンライン文献

下記 ii) f. に準ずる。

ii) 外国語文献の記載例

a. 単行本

Burke, T. 1996. *Lifebuoy Men, Lux Women: Commodification, Consumption, and Cleanliness in Modern Zimbabwe*. Durham & London: Duke University Press.

Young, Richard. 2006. *Europe and the Middle East: In the Shadow of September 11*. Colorado & London: Lynne Rienner Publishers.

al-Ṣāygh, Fāṭima. 2000. *al-Imārāt al-'Arabīya al-Muttaḥida: Min al-Qabīla ilā al-Dawla*. al-'Ayn: Dār al-Kutub al-Jāmi'ī.

b. 論文

・単行本所収論文

Obeyesekere, G. 1980. “The Rebirth Eschatology and its Transformations: A Contribution to the Sociology of Early Buddhism,” in Wendy D. O’Flaherty ed., *Karma and Rebirth in Classical Indian Traditions*, Berkeley: University of California Press, pp. 137-164.

・雑誌論文

Ingold, T. 1990. “An Anthropologist Looks at Biology,” *Man* 25(2), pp. 208-229.

c. 翻訳文献

Bourdieu, P. 1990. *The Logic of Practice*, tr. Richard Nice. Cambridge: Polity Press.

d. 新聞

Techawongtham, Wasant. 2000 (June 23). “People made to pay for mistakes,” *Bangkok Post*.

e. 文書

NSC 41 1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D. C.).

f. オンライン文献

SW (Social Watch). 2007. <http://www.socialwatch.org/en/portada.htm> (6月6日閲覧).